（２） かんきつ

<table>
<tr><th rowspan="2">防除法
病害虫名</th><th rowspan="2">防除のポイント</th><th colspan="3">薬　剤　防　除</th></tr>
<tr><th>防除時期</th><th>RACコード</th><th>薬　剤</th></tr>
<tr><td>1 黒点病
Diaporthe citri
Diaporthe spp.
（軸腐病）</td><td>1.病原菌は枯枝で越冬し、伝染源になるので枯れ枝を見つけ、切り取る。
2.切り取った枯枝は適切な処分をする。
3.間伐、整枝せん定を適正に行い、樹幹内部への採光を図る。
〈薬剤使用の特記事項〉
1.伊予柑、甘夏に対しては、ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤は他剤との混用により、薬害を生じることがあるので単用で使用する。
2.梅雨期には固着性の高い展着剤を加用する。
3.コサイド3000は炭酸カルシウム水和剤（クレフノンまたはアプロン）を加用する。
4.降雨による残効期間の目安は、ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤の場合、散布後の降水量250～300mmである。
5.フロンサイドＳＣ使用上の注意
・皮膚にかぶれを生じることがあるので、散布後７～10日以内の入園はしない。
・ハウスでは使用しない。
・レモンには使用しない。
6.フロンサイドＳＣは、ミカンハダニ、ミカンサビダニにも登録がある。
7.黒点病菌による軸腐病（貯蔵病害）の防除のためにも、黒点病防除を徹底する。
8.デランフロアブル使用上の注意
・開花期以降のマシン油乳剤との混用散布は薬害を生じるおそれがあるので避ける。
・開花期以降に使用する場合は、マシン油乳剤との散布間隔を30日程度あけること。
・夏期以降の散布は、果皮に薬害を生じるおそれがあるので避ける。
・収穫後長期貯蔵する中晩柑には果皮に斑点が発生することがあるので使用しない。
・機能性展着剤(アプローチＢＩなど)の加用は薬害を生じるおそれがあるので避ける。
9.ストロビードライフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。
10.ＩＣボルドー６６Ｄの注意事項はかいよう病の項を参照。
11.キノンドー水和剤４０、キノンドーフロアブル、ラビライト水和剤は、みかんに登録がある。
12.セルカディスＤフロアブルの使用上の注意はデランフロアブルを参照。
13.キノンドー顆粒水和剤は石灰硫黄合剤、水和硫黄剤等との混用は避ける</td><td>５月中旬
～６月下旬
（１回散布）
７月中旬
～９月下旬
（２～３回散布）</td><td>11
29
M1
M1
M1
M1
M1
M1
M1
M3
M3
M9
3･11
1･M3
3･M3
M9・7</td><td>ストロビードライフロアブル
フロンサイドＳＣ
コサイド３０００
ＩＣボルドー６６Ｄ
オキシンドー水和剤８０
キノンドー水和剤４０
キノンドー水和剤８０
キノンドー顆粒水和剤
キノンドーフロアブル
クミガードＳＣ
ジマンダイセン水和剤
ペンコゼブ水和剤
デランフロアブル
(混)ナティーボフロアブル
(混)ラビライト水和剤
(混)テーク水和剤
(混)セルカディスＤフロアブル</td></tr>
<tr><td>2 そうか病
Elsinoe fawcettii</td><td>1.窒素質肥料の過用を避け、徒長を防ぐ。
2.霧の発生しやすいところ、風当たりの強いところへの栽植を避け、防風垣、あるいは防風樹を植付ける。
3.病斑のある枝梢や葉はできる限り切り取る。
〈薬剤使用の特記事項〉
1.発病のひどいところでは、６月下旬～７月上旬にも散布する。
2.ＩＣボルドー６６Ｄの注意事項はかいよう病の項を参照。
3.ストロビードライフロアブル、デランフロアブル、フロンサイドＳＣの注意事項は黒点病の項を参照。
4.トップジンM水和剤、ベンレート水和剤、ベルクート水和剤、キノンドー水和剤４０、キノンドーフロアブル、ベルクート水和剤、ラビライト水和剤は、みかんに登録がある。
5.トップジンM水和剤はかんきつにも登録があるが、かんきつではそうか病は適用病害ではない。
6.セルカディスＤフロアブル・デランフロアブル使用上の注意
・開花期以降のマシン油乳剤との混用散布は薬害を生じるおそれがあるので避ける。
・開花期以降に使用する場合にはマシン油乳剤との散布間隔を30日程度あけること。
・夏期以降の散布は果皮に薬害を生じるおそれがあるので避ける。
・収穫後長期間貯蔵する中晩柑に使用する場合は、貯蔵中、果皮に斑点が発生することがあるので使用しない.
・機能性展着剤（アプローチＢＩなど）の加用は薬害を生じるおそれがあるので避ける。</td><td>発芽伸長期
(４月中旬
～下旬)
落花期
(５月上旬
～下旬)
幼果期
(６月上旬
～中旬)</td><td>1
1
3
3
7
7
7
7
11
11
29
M1
M1
M1
M1
M1
M1
M1
M1
M7
M9
10･1
11･7
1･M3
3･M3
M1･M1
M9･7</td><td>トップジンＭ水和剤
ベンレート水和剤
オーシャイン水和剤
マネージＤＦ
フルーツセイバー
パレード１５フロアブル
カナメフロアブル
ロンセラーフロアブル
ストロビードライフロアブル
ファンタジスタ顆粒水和剤
フロンサイドＳＣ
クプロシールド
オキシンドー水和剤８０
クミガードＳＣ
キノンドー水和剤４０
キノンドーフロアブル
キノンドー顆粒水和剤
ムッシュボルドーＤＦ
ＩＣボルドー６６Ｄ
ベルクート水和剤
デランフロアブル
(混)ゲッター水和剤
(混)ナリアＷＤＧ
(混)ラビライト水和剤
(混)テーク水和剤
(混)キンセット水和剤８０
(混)セルカディスＤフロアブル</td></tr>
</table>

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

かんきつ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
3 かいよう病 *Xanthomonas citri* subsp. *citri*	1.風当たりの強いところへの栽植を避ける。 2.防風垣あるいは防風樹を植える（施設栽培では発生が少ない）。 3.ミカンハモグリガ（エカキムシ）防除を徹底する。 4.罹病した夏秋梢は、除去する。 5.土壌改良など適正な肥培管理を行い、樹勢を健全に保つ。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.夏柑、ネーブル、伊予柑などは本病に弱い。 2.台風前後には必ず散布する。 3.コサイド3000、ムッシュボルドーＤＦ、フジドーLフロアブルは炭酸カルシウム水和剤（クレフノンまたはアプロン）を加用する。 4.薬害のおそれがあるので、コサイド3000は４月の散布を避ける。 5.ＩＣボルドー使用上の注意 ・石灰硫黄合剤、有機リン剤、マシン油乳剤等を混用すると薬効を減じ、薬害を起こす原因となるので混用しないこと。 ・マシン油乳剤を散布した園でＩＣボルドー６６Ｄを使用する場合は、１か月以上あけて散布する。	発芽前 （３月中旬）	M1 M1 M1 M1 M1 M1 24･M1 24･M1	コサイド３０００ ムッシュボルドーＤＦ クプロシール ＩＣボルドー６６Ｄ フジドーＬフロアブル クミガードＳＣ （混）カスミンボルドー （混）カッパーシン水和剤
		発病前 ～発病初期	－(生)	（生）マスタピース水和剤
		４月下旬 ～５月上旬 ５月下旬 ６月下旬 ～７月下旬 ８月中旬 ～９月中旬	41 U18 M1 M1 M1 24･M1 24･M1 M1･M1 NC･M1	マイコシール バリダシン液剤５ コサイド３０００ クプロシール クミガードＳＣ （混）カスミンボルドー （混）カッパーシン水和剤 （混）キンセット水和剤８０ （混）ジーファイン水和剤
	・散布直後に降雨があると薬害が発生しやすいので注意すること。 ・新梢伸長期には石灰による葉焼けを生じるおそれがあるので使用を避けること。 ・梅雨明け以降の夏季高温時の散布は、薬害（スターメラノーズ）を生じるおそれがあるので使用を避けること。 ・樹勢の弱い樹や異常気温が予想される場合は、落葉を助長するおそれがあるので使用しないこと。			
4 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.施設では過湿にならないよう注意する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ストロビードライフロアブル、フロンサイドＳＣの注意事項は黒点病の項参照。 2.トップジンM水和剤、ベンレート水和剤、ラビライト水和剤、スミブレンド水和剤、スミレックスくん煙顆粒は、みかんに登録がある。 3.トップジンM水和剤はかんきつにも登録があるが、かんきつでは灰色かび病は適用病害ではない。 4.開花期の防除では、開花期間が長く、花と幼果が混在している場合や、花と前作の果実が混在している場合は、使用時期の収穫前日数が短い薬剤を選び、開花期限定の薬剤は使用しない。 5.セルカディスＤフロアブルの注意事項についてはそうか病の項を参照。	満開時～落弁期 ｳﾝｼｭｳﾐｶﾝ： ５月中旬～ 中晩柑： ５月上旬～ （開花期は年次間差があるので注意する）	1 1 2 3 7 7 7 7 11 11 29 52 M1 M7 M7 1･M3 1･10 2･10 3･M3 M7･19 11･7 9･12 M9･7	トップジンＭ水和剤 ベンレート水和剤 スミレックス水和剤 オーシャイン水和剤 フルーツセイバー カナメフロアブル パレード１５フロアブル ロンセラーフロアブル ストロビードライフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 フロンサイドＳＣ アイーナ２０フロアブル キノンドー顆粒水和剤 ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル （混）ラビライト水和剤 （混）ゲッター水和剤 （混）スミブレンド水和剤 （混）テーク水和剤 （混）ポリベリン水和剤 （混）ナリアＷＤＧ （混）スイッチ顆粒水和剤 (混)セルカディスＤフロアブル
		ハウス内防除 （くん煙）	2	スミレックスくん煙顆粒
		ハウス内防除 (ダクト内投入)	BM2	（生）ボトキラー水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

かんきつ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
5 褐色腐敗病 *Phytophthora citrophthora* *P. citricola*	1.園内の排水をよくする。 2.汚濁水を潅水に使用しない。 3.敷わらを行い、雨水の飛散を防ぐ。 4.発病果は園内から除去する。 5.水田転換園並びに中晩柑類に発生が多い。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.伊予柑、甘夏に対してはジマンダイセン水和剤は他剤との混用により、薬害を生じることがあるので単用で使用する。 2.ストロビードライフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。 3.リドミルゴールドＭＺは、みかんに登録がある。	８月下旬 ～収穫期	11 21 P7 M3 43･40 M3･4	ストロビードライフロアブル ランマンフロアブル アリエッティ水和剤 ジマンダイセン水和剤 (混)ジャストフィットフロアブル (混)リドミルゴールドＭＺ
6 炭疽病（さび果病） *Colletotrichum gloeosporioides* *C. fioriniae* *C. siamense* *C. truncatum*	1.枯れ枝や枯れ葉を除去する。 2.園内の通風をよくする。 3.袋かけや紙片を果面に貼り付ける。 4.８～９月にかけて無機成分の葉面散布剤を数回散布する。 5.日焼けによる発病は、南西傾斜面で耕土が浅い園や直立枝に結実している果実に発生が多い。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.デランフロアブルの注意事項は黒点病の項を参照。		M9 3･11 7･11	デランフロアブル (混)ナティーボフロアブル (混)ナリアＷＤＧ
7 貯蔵病害 （青かび病） *Penicillium italicum* （緑かび病） *Penicillium digitatum* （黒腐病） *Alternaria citri*	1.果実をていねいに収穫する。 2.収穫は晴天の日を選んで行い、降雨直後の収穫は避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.トップジンM水和剤は、施設栽培のかんきつ（みかんを除く）には使用しない。	収穫前10～30日	1 1 3 11 M7 M7	トップジンＭ水和剤 ベンレート水和剤 オーシャイン水和剤 マッチョフロアブル ベルクートフロアブル ベルクート水和剤
8 白紋羽病 *Rosellinia necatrix* 紫紋羽病 *Helicobasidium mompa*	1.作物がない場合、禾本科の作物を３～４年栽培し、石灰などを施して有機物の分解を促進させる。 2.前作物の罹病根は集めて処分する。 3.小面積の場合は、焼土法を行うのもよい。 4.栽植に当たっては、発病のおそれがあるところは植穴に粗大有機物などの埋没をしない。	作物が被害を受けた場合		被害株を抜き取り、跡地を消毒する
9 切り口の枯込み防止	1.土作りを行い、樹勢を健全に保つ。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.トップジンMペーストには、切り口の枯れ込み防止のほかに、ゆ合を促進する効果もある。	整枝せん定時	1	トップジンＭペースト
10 ステムピッティング病（ハッサク萎縮病）（ＣＴＶ）	1.穂木は無毒樹またはトリステザ弱毒系ウイルス樹(20年生以上)から採穂する。 2.温州ミカンを中間台木として高接更新しない。 3.ミカンクロアブラムシの防除を徹底する。 4.土壌改良など、適正な肥培管理を行い、樹勢を健全に保つ。 5.接木伝染と虫媒伝染する。			
11 温州萎縮病（ＳＤＶ） モザイク病 （ＣｉＭＶ）	1.穂木は無毒樹から採穂する。 2.発病樹は速やかに伐採し、根を残さないように集め、掘取跡を利用して、焼土する。 3.接木伝染と土壌伝染する。			
12 エクソコーティス病（ＣＥＶｄ）	1.無病樹から採穂する。 2.せん定器具は水酸化ナトリウム２％、ホルマリン２％を含む混合液に数秒間浸漬し、水洗して用いれば、健全樹への伝染が防止できる。 3.接木伝染する。			

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
13 越冬害虫 カイガラムシ類 ミカンハダニ	1.寄生密度の高い枝を切り落とす。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.樹勢が弱っている樹には使用しない。 2.ボルドー液等のアルカリ性薬剤やジチアノン剤、ＴＰＮ剤等の水和剤および銅剤との混用は避ける。 3.ジチアノン剤との近接散布は果実に薬害を生じる危険があるので避ける。 4.本虫対象に防除を実施しているところでは、コナジラミ類、ロウムシ類の発生が少ない。	12月中旬 ～１月下旬	UNM	機械油乳剤９５
			UNM	トモノール
			UNM	トモノールＳ
			UNM	アタックオイル
			UNM	スピンドロン乳剤
			UNM	スプレーオイル
			UNM	ハーベストオイル
		３月中旬 ～４月上旬	UNM	アタックオイル
			UNM	スピンドロン乳剤
			UNM	スプレーオイル
			UNM	トモノールＳ
			UNM	ハーベストオイル
14 ヤノネカイガラムシ	1.寄生密度の高い枝を切り落とす。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.有機リン剤（RACコード：1B）の散布適期は２齢幼虫の最多寄生期である。 2.アプロード水和剤とアプロードフロアブルの効果は幼虫に対して遅効的であり、成虫に効果がないので注意する。 3.カルホス乳剤、エルサン水和剤４０は、みかんに登録がある。	６月上旬 （第１世代幼虫）	1A	オリオン水和剤４０
			1B	カルホス乳剤
			1B	エルサン水和剤４０
			1B	エルサン乳剤
			1B	スミチオン乳剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	モスピランＳＬ液剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			9B	コルト顆粒水和剤
			16	アプロード水和剤
			16	アプロードフロアブル
			23	モベントフロアブル
			16･21A	(混)アプロードエースフロアブル
		８月上旬～中旬	1B	カルホス乳剤
			1B	エルサン水和剤４０
			1B	エルサン乳剤
			1B	スミチオン乳剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			23	モベントフロアブル
15 ナシマルカイガラムシ （サンホーゼカイガラムシ）	1.寄生密度の高い枝を切り落とす。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アプロード水和剤の効果は幼虫に対して遅効的であり、成虫に効果がないので注意する。 3.カルホス乳剤、エルサン水和剤４０は、みかんに登録がある。	６月上旬～中旬 （第１世代幼虫） ８月上旬 ～８月中旬 （第２世代幼虫） ９月下旬 （第３世代幼虫）	1A	オリオン水和剤４０
			1B	カルホス乳剤
			1B	エルサン水和剤４０
			1B	エルサン乳剤
			4A	ダントツ水溶剤
			9B	コルト顆粒水和剤
			16	アプロード水和剤
16 イセリヤカイガラムシ	1.寄生密度の高い枝を切り落とす。 2.４月中旬にベダリアテントウを放飼す **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.防除時期を逃さないようにする。 2.カルホス乳剤は、みかんに登録がある。	６月上旬 ８月下旬	1A	オリオン水和剤４０
			1B	カルホス乳剤
			1B	スミチオン乳剤
			4C	トランスフォームフロアブル
17 コナカイガラムシ類	1.寄生密度の高い枝を切り落とす。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アプロード水溶剤、アプロードフロアブルの効果は幼虫に対して遅効的であり、成虫に効果がないので注意する。 2.苗木の防除は果樹参考３参照。 3.カルホス乳剤は、みかんに登録がある。	６月中旬 ～７月上旬 ８月上旬 ９月下旬 ～10月上旬	1A	オリオン水和剤４０
			1B	スミチオン乳剤
			1B	カルホス乳剤
			1B	エルサン乳剤
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	モスピランＳＬ液剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			9B	コルト顆粒水和剤
			16	アプロード水和剤
			16	アプロードフロアブル
			21A	ハチハチフロアブル

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
18 ルビーロウムシ	1.寄生密度の高い枝を切り落とす。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.防除時期を逃さないようにする。	7月上中旬	4A	アクタラ顆粒水溶剤
19 ツノロウムシ	1.寄生密度の高い枝を切り落とす。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.防除時期を逃さないようにする。 2.カルホス乳剤は、みかんに登録がある。 3.アクタラ顆粒水溶剤は、ロウムシ類に登録がある。	7月上中旬 (2齢幼虫まで)	1B 4A 4A 4A	カルホス乳剤 モスピラン顆粒水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤
20 ミカンネコナカイガラムシ	1.石灰を入れて土壌pHを5.5～6.0に矯正する。			
21 ミカンハダニ	**〈薬剤使用の特記事項〉** 1.殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を抑えるため、同一系統の農薬の使用回数を年1回とする。 2.低密度の時にていねいに散布する。 3.マシン油乳剤を使用する場合には次のことに注意する。 ・高温時及び樹勢の弱い園での使用を避ける。 ・開花後にボルドー液を散布した園では使用しない。 4.マイトクリーン、カネマイトフロアブルをハウス栽培では使用しない。 5.薬害のおそれがあるので、コロマイト水和剤を中晩柑(清見、甘夏、日向夏)の着色始期以降に使用しない。 6.本虫対象にサンマイト水和剤で防除を実施しているところでは、ミヤケハダニの発生が少ない。 7.ニッソラン水和剤、バロックフロアブルは遅効性で成虫には効果がないので注意する。 8.エコピタ液剤、フーモン、サフオイル乳剤は害虫に直接かからないと効果がないので、ムラなく丁寧に散布する。 9.マブリックジェットは、みかんに登録がある。 10.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	6月上中旬 発生初期 (1葉当たり 0.5～1頭)	UNM UNM UNM UNM UNM UN	アタックオイル スピンドロン乳剤 スプレーオイル トモノールS ハーベストオイル モレスタン水和剤
		7月上旬～中旬 8月～9月下旬 発生初期 (1葉当たり 0.5～1頭)	6 15 23 23 10A 10B 20B 20D 21A 21A 21A 23 25A 25A 25B 33 － － － 6･10B -･10B 25A･21A 25B･21A	コロマイト水和剤 カスケード乳剤 ダニエモンフロアブル ダニゲッターフロアブル ニッソラン水和剤 バロックフロアブル カネマイトフロアブル マイトコーネフロアブル ダニトロンフロアブル ピラニカ水和剤 サンマイト水和剤 モベントフロアブル スターマイトフロアブル ダニサラバフロアブル ダニコングフロアブル ダニオーテフロアブル エコピタ液剤 フーモン サフオイル乳剤 (混)メビウスフロアブル (混)ダニメツフロアブル (混)スターマイトプラスフロアブル (混)ダブルフェースフロアブル
		10月上旬 ～11月上旬 発生初期	12C 15 UNM	オマイト水和剤 カスケード乳剤 ハーベストオイル
		ハウス内防除 (くん煙)	3A 3A	マブリックジェット ロディーくん煙顆粒

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
22 ミカンサビダニ	**〈薬剤使用の特記事項〉** 1.多発生の場合には9月にも薬剤を散布する。 2.抵抗性発達のおそれがあるので、薬剤の選択に注意する。 3.水和硫黄剤（イオウフロアブル、コロナフロアブル、サルファーゾル）は、28℃以上の高温時には使用しない。 4.薬害のおそれがあるので、コロマイトを中晩柑（清見、甘夏、日向夏）の着色始期以降に使用しない。 5.ダニトロンフロアブル、サンマイト水和剤には交差抵抗性があるので注意する。 6.カネマイトフロアブルはハウス栽培では、開花期以降使用しない。 7.イデクリーン水和剤、園芸ボルドーは新梢、葉に対する薬害軽減のため、炭酸カルシウム水和剤を加用する。 8.グレーシアフロアブルは天敵に影響があり、ミカンハダニが増加する可能性がある。 9.ミネクトエクストラＳＣはアルカリ性の農薬や肥料との混用により有効成分が分解するおそれがあるので混用は避ける。	6月中旬～下旬 7月上旬～中旬 8月～10月上旬	1B 6 6 6 10B 13 15 19 20B 20D 21A 21A 21A 23 23 23 30 34 34 UN UN UN UN UN･- UN･- 4A･15 28･15 6･10B 16･21A 25A･21A 25B･21A	エルサン乳剤 コロマイト水和剤 アニキ乳剤 アグリメック バロックフロアブル コテツフロアブル マッチ乳剤 ダニカット乳剤２０ カネマイトフロアブル マイトコーネフロアブル ダニトロンフロアブル サンマイト水和剤 ハチハチフロアブル ダニエモンフロアブル ダニゲッターフロアブル モベントフロアブル グレーシアフロアブル ファインセーブフロアブル アベンジャーフロアブル モレスタン水和剤 イオウフロアブル コロナフロアブル サルファーゾル (混)イデクリーン水和剤 (混)園芸ボルドー (混)リーズン顆粒水和剤 (混)ミネクトエクストラＳＣ (混)メビウスフロアブル (混)アプロードエースフロアブル (混)スターマイトプラスフロアブル (混)ダブルフェースフロアブル
23 チャノホコリダニ	1.被害枝は回復しないので、せん除し、被害果は早期に摘果する。 2.レモン、アンコール等に発生が多く、温州みかんにも発生する。 3.ハウス栽培での発生が多い。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発生初期の低密度時に散布する。 2.薬害のおそれがあるので、コロマイト水和剤を中晩柑（清見、甘夏、日向夏）の着色始期以降に使用しない。 3.フロンサイドＳＣの注意事項は黒点病の項を参照。 4.カネマイトフロアブルはハウス栽培では、開花期以降使用しない。 5.グレーシアフロアブルは天敵に影響があり、ミカンハダニが増加する可能性がある。	発生初期	6 6 13 23 23 23 20B 21A 21A 25A 29 30 34 UN 6･10B 16･21A 25A･21A	コロマイト水和剤 アグリメック コテツフロアブル ダニエモンフロアブル ダニゲッターフロアブル モベントフロアブル カネマイトフロアブル ピラニカ水和剤 ハチハチフロアブル スターマイトフロアブル フロンサイドＳＣ グレーシアフロアブル ファインセーブフロアブル モレスタン水和剤 (混)メビウスフロアブル (混)アプロードエースフロアブル (混)スターマイトプラスフロアブル
24 ミカンハモグリガ （エカキムシ）	1.せん定時期に、前年の被害葉を除去する。 2.過剰な施肥や強せん定を控え、新梢の発生を一斉にすると、防除回数の軽減につながる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発芽展葉期から緑化完了期までに重点防除を行う。 2.新葉の伸長に応じて散布する。	発生期 （6月上旬～ 9月上旬） （３～７日間隔）	1A 1B 1B 1B 3A 3A 3A 3A 3A 3A	オリオン水和剤４０ カルホス乳剤 エルサン水和剤４０ エルサン乳剤 アディオン乳剤 アグロスリン乳剤 サイハロン水和剤 スカウトフロアブル スカウト乳剤

かんきつ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
	3.カルホス乳剤、エルサン水和剤４０、サイハロン水和剤、アファーム乳剤、ビリーブ水和剤はみかんに登録がある。 4.ノーモルト乳剤、マッチ乳剤、カスケード乳剤は脱皮阻害剤なので若齢幼虫発生期に散布する。 5.ノーモルト乳剤は、みかん、なつみかんに登録がある。 6.ハウスミカンにはアファーム乳剤を７月以降に散布しない。 7.苗木の防除は果樹参考３参照。 8.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。 9.ミネクトエクストラＳＣはアルカリ性の農薬や肥料との混用により有効成分が分解するおそれがあるので混用は避ける。	発生期 (６月上旬～ ９月上旬) (３～７日間隔)	3A	ロディー乳剤
			3A	テルスター水和剤
			3A	マブリック水和剤２０
			3A	マブリックＥＷ
			3A	トレボン乳剤
			3A	バイスロイドＥＷ
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	モスピランＳＬ液剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			5	スピノエースフロアブル
			5	ディアナＷＤＧ
			6	アニキ乳剤
			6	アファーム乳剤
			6	アグリメック
			15	ノーモルト乳剤
			15	マッチ乳剤
			15	カスケード乳剤
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	エクシレルＳＥ
			3A･15	(混)ビリーブ水和剤
			4A･15	(混)リーズン顆粒水和剤
			28･15	(混)ミネクトエクストラＳＣ
			3A･1B	(混)スミロディー乳剤
			6･10B	(混)メビウスフロアブル
25 ハマキムシ類	**〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ミクロデナポン水和剤８５はみかんに登録がある。 2.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	発生期 ５月上旬 ６月下旬 ～７月上旬 ７月下旬 ～８月上旬 10月上旬 ～10月中旬	1A	ミクロデナポン水和剤８５
			1A	オリオン水和剤４０
			1B	エルサン乳剤
			3A	ロディー乳剤
			5	ディアナＷＤＧ
			11A	トアロール水和剤ＣＴ
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクＤＦ
			11A	クオークフロアブル
			11A	ファイブスター顆粒水和剤
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			28	エクシレルＳＥ
26 アブラムシ類	1.下草、周辺雑草を処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.巻葉ができないうちに早めに散布する。 2.ミクロデナポン水和剤８５、サイハロン水和剤、モスピランジェットは、みかんに登録がある。ただしローヌ・プーランミクロデナポン水和剤８５はアブラムシに登録が無い。 3.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。 4.合成ピレスロイド剤を使用する際、地域によっては感受性の低下がみられるので注意する。 5.本虫対象に初春にアグロスリンで防除を実施しているところでは、クワゴマダラヒトリの発生が少ない。 6.苗木の防除は果樹参考３参照。 7.キラップは施設栽培及び着色期以降での使用は、薬害を出すおそれがあるので使用しない。	発生期	1A	ミクロデナポン水和剤８５
			1A	オリオン水和剤４０
			2B	キラップフロアブル
			3A	アディオン乳剤
			3A	アグロスリン水和剤
			3A	アグロスリン乳剤
			3A	サイハロン水和剤
			3A	ロディー水和剤
			3A	ロディー乳剤
			3A	テルスター水和剤
			3A	テルスターフロアブル
			3A	マブリック水和剤２０
			3A	マブリックＥＷ
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	モスピランＳＬ液剤
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤

かんきつ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
	8.エコピタは害虫に直接かからないと効果がないので、ムラなく丁寧に散布する。	発生期	4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			9B	コルト顆粒水和剤
			21A	ハチハチフロアブル
			29	ウララ５０ＤＦ
			－	エコピタ液剤
			3A･1B	(混)スミロディー乳剤
		ハウス内防除(くん煙)	4A	モスピランジェット
27 アゲハ類	1.卵、幼虫を捕殺する。 2.苗木の防除は果樹参考３参照。 3.ノーモルト乳剤は、みかん、なつみかんに登録がある。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アクセルフロアブルはヨモギエダシャクにも登録がある。 2.ミネクトエクストラＳＣはアルカリ性の農薬や肥料との混用により有効成分が分解するおそれがあるので混用は避ける。	発生期 (５月中旬 ～10月下旬)	1A	オリオン水和剤４０
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	モスピランＳＬ液剤
			4A	ダントツ水溶剤
			5	デ ィ ア ナ Ｗ Ｄ Ｇ
			6	アニキ乳剤
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			15	ノーモルト乳剤
			15	マッチ乳剤
			22B	アクセルフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	フェニックスフロアブル
			28	エクシレルＳＥ
			4A･15	(混)リーズン顆粒水和剤
			28･15	(混)ミネクトエクストラＳＣ
28 コナジラミ類	1.夏秋梢の発生を少なくするような栽培管理を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アプロード水和剤の効果は幼虫に対して遅効的であり、成虫に効果がないので注意する。 2.エルサン水和剤４０の登録はミカンコナジラミでの、エルサン乳剤の登録はミカンコナジラミとミカントゲコナジラミでの、アプロード水和剤の登録はミカントゲコナジラミ若齢幼虫での適用である。 3.エルサン水和剤４０はみかんに登録がある。	６月中旬 ～７月上旬 ８月中下旬	1B	エルサン水和剤４０
			1B	エルサン乳剤
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	モスピランＳＬ液剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			5	デ ィ ア ナ Ｗ Ｄ Ｇ
			9B	コルト顆粒水和剤
			16	アプロード水和剤
			23	モベントフロアブル
29 ナメクジ類 カタツムリ類	1.コイル状にした銅線を主幹部に幅広く巻きつける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ＩＣボルドー６６Ｄはかいよう病等との同時防除または主幹への散布（忌避効果）する。 2.アグリメックは、ナメクジ類に登録がある。	発生前	6	アグリメック
			－	マイキラー Ｌ
			－	ナメクリーン３
			－	ムッシュボルドー ＤＦ
			－	ＩＣボルドー６６Ｄ
30 カネタタキ	**〈薬剤使用の特記事項〉** 1.キラップフロアブルは施設栽培及び着色期以降での使用は、薬害を出すおそれがあるので使用しない。 2.グレーシアフロアブルは天敵に影響があり、ミカンハダニが増加する可能性がある。 3.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	７月中旬 ～８月下旬	1A	オリオン水和剤４０
			2B	キラップフロアブル
			3A	テルスターフロアブル
			3A	ロディー乳剤
			3A	アークリン水和剤
			13	コテツフロアブル
			21A	ハチハチフロアブル
			30	グレーシアフロアブル

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
31 ゴマダラカミキリ （カミキリムシ）	1.５月末までに0.1㎜のポリフィルム、ビニールまたは新聞紙（３枚重ね以上）などを主幹部に巻く。 2.６～９月に成虫を捕殺する。 3.産卵期からふ化時に園内を見まわり、卵及び幼虫を刺殺する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●６月中下旬（成虫）は樹全体だけでなく主幹にも散布する。 1.グレーシアフロアブルは天敵に影響があり、ミカンハダニが増加する可能性がある。 ●６月下旬～７月上旬（産卵防止）、７月中下旬（食入防止）は次のとおり。 1.葉や果実にかからないように注意する。 2.ガットキラー乳剤、サッチューコートＳ、ガットサイドＳはみかん、なつみかんに登録がある。 3.苗木の防除は果樹参考３参照。 4.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。 5.ミネクトエクストラＳＣはアルカリ性の農薬や肥料との混用により有効成分が分解するおそれがあるので混用は避ける。	５月下旬 ～７月中旬 （成虫）	1A	オリオン水和剤４０
			1B	エルサン乳剤
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	モスピランＳＬ液剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			21A	ハチハチフロアブル
			22B	アクセルフロアブル
			28	エクシレルＳＥ
			30	グレーシアフロアブル
			4A･15	（混）リーズン顆粒水和剤
			28･15	（混）ミネクトエクストラＳＣ
		６月下旬 ～７月上旬 （産卵防止） ７月中下旬 （食入防止）	1B	ガットキラー乳剤
			1B	サッチューコートＳ
			1B	ガットサイドＳ
			3A	園芸用キンチョールＥ
			3A	ロビンフッド
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	モスピランＳＬ液剤
			22B	アクセルフロアブル
32 コアオハナムグリ ケシキスイ類	1.シルバーマルチやアルミ蒸着フィルムを樹間に帯状に設置する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ミクロデナポン水和剤８５は、みかんのコアオハナムグリに登録がある。 2.ケシキスイの多いところでは有機リン剤（RACコード：1B）を使用する。 3.開花期の防除では、開花期間が長く、花と幼果が混在している場合や、花と前作の果実が混在している場合は、使用時期の収穫前日数が短い薬剤を選び、開花期限定の薬剤は使用しない。 4.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	５月上旬	1A	ミクロデナポン水和剤８５
			1A	オリオン水和剤４０
			1B	スミチオン乳剤
			3A	アグロスリン乳剤
			3A	スカウト乳剤
			3A	ロディー乳剤
			3A	マブリック水和剤２０
			3A	アークリン水和剤
			3A	マブリックＥＷ
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	モスピランＳＬ液剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			28	エクシレルＳＥ
			3A･1B	（混）スミロディー乳剤
33 チャノキイロアザミウマ	1.光反射シートを地表面に全面マルチする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.サイハロン水和剤、ビリーブ水和剤、アファーム乳剤は、みかんに登録がある。 2.グレーシアフロアブルはアザミウマ類で登録がある。 3.ハウスミカンにはアファームを７月以降に散布しない。 4.キラップは、施設栽培及び着色期以降での使用は、薬害を出すおそれがあるので使用しない。 5.グレーシアフロアブルは天敵に影響があり、ミカンハダニが増加する可能性がある。 6.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	発生期 ５月上旬 ～６月中旬 ７月上旬 ７月中旬～下旬 ８月中旬 ～10月下旬	1A	オリオン水和剤４０
			2B	キラップフロアブル
			3A	アディオン乳剤
			3A	アグロスリン水和剤
			3A	アグロスリン乳剤
			3A	アークリン水和剤
			3A	サイハロン水和剤
			3A	スカウトフロアブル
			3A	スカウト乳剤
			3A	ロディー水和剤
			3A	ロディー乳剤
			3A	テルスター水和剤
			3A	テルスターフロアブル
			3A	マブリック水和剤２０
			3A	マブリックＥＷ
			3A	アークリン水和剤
			3A	バイスロイドＥＷ
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
	7.ミネクトエクストラＳＣはアルカリ性の農薬や肥料との混用により有効成分が分解するおそれがあるので混用は避ける。	発生期 ５月上旬 ～６月中旬 ７月上旬 ７月中旬～下旬 ８月中旬 ～10月下旬	4A 4A 4A 4A 4A 4A 5 5 6 6 6 9B 13 15 15 21A 23 23 28 29 30 34 34 UN UN 3A･15 4A･15 28･15 3A･1B 6･10B	モスピランＳＬ液剤 ベストガード水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 スピノエースフロアブル ディアナＷＤＧ アニキ乳剤 アファーム乳剤 アグリメック コルト顆粒水和剤 コテツフロアブル マッチ乳剤 カスケード乳剤 ハチハチフロアブル モベントフロアブル ダニゲッターフロアブル エクシレルＳＥ ウララ５０ＤＦ グレーシアフロアブル ファインセーブフロアブル アベンジャーフロアブル ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 （混）ビリーブ水和剤 （混）リーズン顆粒水和剤 （混）ミネクトエクストラＳＣ （混）スミロディー乳剤 （混）メビウスフロアブル
34 ミカンキイロアザミウマ	1.ハウスみかんに発生する。 2.ハウスの開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 3.圃場周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 4.ハウスの出入口を開放しない。 5.青色粘着テープを吊るしておくと発生時期の把握に有効である。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.密度が高くなると防除効果が劣るので、低密度時での散布を心がける。 2.露地ミカンの開花後に密度が急増するので注意する。 3.アファーム乳剤は、みかんに登録がある。 4.グレーシアフロアブルはアザミウマ類に登録がある。 5.ハウスミカンにはアファームを７月以降に散布しない。 6.グレーシアフロアブルは天敵に影響があり、ミカンハダニが増加する可能性がある。 7.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。	発生期 ５月上旬 ～６月中旬 ７月上旬 ７月中旬～下旬 ８月中旬 ～10月下旬 <

かんきつ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
36 カメムシ類	1.早生温州は被害を受けやすい。 2.園の周辺やスギ、ヒノキ等の防風林が発生源になりやすいので注意する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.夜間に飛来するため、散布は夕方に行う。 2.エルサン粉剤３ＤＬ、サイハロン水和剤は、みかんに登録がある。 3.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	発生期 ５月下旬～10月	1B 1B 1B 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 3A･1B	スミチオン乳剤 エルサン乳剤 エルサン粉剤３ＤＬ アディオン乳剤 アグロスリン水和剤 アグロスリン乳剤 サイハロン水和剤 ロディー乳剤 テルスター水和剤 テルスターフロアブル マブリック水和剤２０ マブリックＥＷ アドマイヤーフロアブル アドマイヤー顆粒水和剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 モスピランＳＬ液剤 (混)スミロディー乳剤
37 果実吸蛾類 アケビコノハ アカエグリバ ヒメエグリバ等	1.ネットをはって、吸汁害を防ぐ。 2.夜間、園地を見まわって成虫を捕殺する。 3.黄色蛍光灯を点灯する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ロディー乳剤、アグロスリン水和剤は、アケビコノハ、ヒメエグリバに適用がある。 2.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	発生期	3A 3A	ロディー乳剤 アグロスリン水和剤
38 クワゴマダラヒトリ	1.８月下旬に果樹園周辺のクワ、アカメガシワ、カラスザンショウ（カラスノサンショウ）などの産卵植物を伐採する。 2.10月上旬に産卵植物上の巣網を採集し、処分する。 3.果樹園周辺の産卵植物にも注意する。 4.越冬後は園内及び周辺の雑草にも注意する。 5.カンキツにも産卵することがるので、巣網の発生に注意する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.カルホス乳剤は、みかんのクワゴマダラヒトリ若齢幼虫に適用があり、若齢期までに散布する。	３月上旬～５月 (越冬後幼虫期) 10月上旬～11月 (巣網期)	1A 1B 11A 11A 11A	オリオン水和剤４０ カルホス乳剤 デルフィン顆粒水和剤 エスマルクＤＦ ファイブスター顆粒水和剤
39 ケムシ類	**〈薬剤使用の特記事項〉** 1.グレーシアフロアブルは天敵に影響があり、ミカンハダニが増加する可能性がある。 2.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	発生期	1A 3A 5 11A 11A 11A 28 28 28 30	オリオン水和剤４０ ロディー乳剤 ディアナＷＤＧ デルフィン顆粒水和剤 エスマルクＤＦ ファイブスター顆粒水和剤 フェニックスフロアブル フェニックス顆粒水和剤 エクシレルＳＥ グレーシアフロアブル
40 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	発生初期	5 13 28	ディアナＷＤＧ コテツフロアブル フェニックスフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する